



{お知らせ}

春彼岸会行事日程について

春暖の候、皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

春風よ、そよげ 愛する子達へ永遠の安らぎに思いを込めて

令和四年 春彼岸会合同慰霊祭のお知らせをさせていただきます。

・期日 三月二十日(日) 三月二十一日(春分の日)

・読経開始 午前十一時よりと午後二時よりの二回

(天候不順の場合は電話にてお問い合わせ下さい)

お参り時間 午前八時～午後五時まで開園

・お塔婆料は二、〇〇〇円より三種・供養料はご予算の範囲内で

*お電話、郵便での受付もいたしております。

何卒皆様のご参列を心よりお待ちしております。



「お彼岸」とは、「到彼岸(とうひがん)」という意味で、煩惱や迷いのある世界から悟りの開けた世界へ至ること、至るために行う修行のことを指します。

語源は、サンスクリット語(古代インド・アリア語に属する言語)で、「paramita(波羅蜜多、パーラミタ)」という言葉だそうです。

「paramita(波羅蜜多、パーラミタ、はらみった)」とは仏教用語で、「彼岸(パーラム)」「至る(イタ)」の2つの意味を持つ言葉です。

仏教では元来、煩惱に満ちあふれるこの現世の世界を「此岸(しがん)」と呼びます。

それに対して、悟りの境地である涅槃(ねはん)、あの世の世界を「彼岸(ひがん)」と呼びました。

「此岸」とは「こちら側の岸」という意味で、「彼岸」は「あちら側の岸」の意味です。こちらとあちら、双方の間には川が流れているのです。

川とは、すなわち生と死の世界を隔てる「三途の川(さんずのかわ)」のことです。

川は仏教にとってとても象徴的な場所で、生と死を分けるだけでなく、煩惱と悟り、俗世と来世を分けるものとされています。

お彼岸の成り立ちは、彼岸の浄土信仰に加え、太陽の動きや天文学も合わさっています。

古代の中国では、お彼岸に太陽が沈む真西の方角に、極楽浄土があると信じました。

太陽が東西へ一直線に動く春分や秋分に太陽が沈む方角こそが、浄土のある方角だとしたのです。

太陽が真東から昇り真西へと沈む、春分の日・秋分の日、この世(此岸)とあの世(彼岸)がもっとも通じやすい日と考えられ、死者を偲ぶ日、来世を偲ぶ日としても捉えられるようになりました。

このように、太陽の動きや天文学と、至彼岸の浄土信仰が合わさって、「お彼岸」という風習が成り立っていきました。だから私たちは、お彼岸にお墓参りを行っているのです。

